

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ライオン 組	6 月 13 日 (金)	川邊

● 実施計画

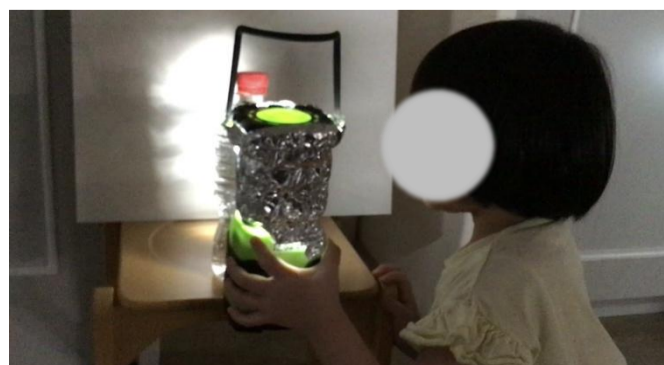
活動テーマ		
サイエンス ～天気～ 虹の色は何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃から子どもたちは、天気や虹に興味をもち、虹がどのようにできるのか、光がどのように色を作り出すのかに関心を示している。また、色の変化や光のふしぎを感じ取り、身近な現象に対する好奇心が育まれている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:05	<ul style="list-style-type: none"> くもり、雨、雪、晴れ以外の天気や、空に現れる現象は何か考え、発表する。 「晴れ、くもり、雨、雪の他に知っている天気はあるかな？」と問いかけたり、①②プログラムでの活動を振り返られるような問いもかけていく。 虹の意見が出たことを確認し、今回は、虹について活動することを伝える。 虹を見たことがあるか、虹はどんな色か考え発表する。「虹はどんな時に見ることが出来るかな？」と問いかけ、実体験から天気との結びつきに発展するよう援助する。 意見はホワイトボードにまとめていく。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 室内で虹の写真や描いた絵を見ながら話し合えるスペースを確保する。 室内で実験が安全に行えるスペースを確保する <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 虹のイラスト ※人数分 クレヨン（色鉛筆）※人数分 ペットボトル(表面が滑らかで円筒形のもの) ※グループで実験できる数 水 アルミホイルをつけた白色灯の懐中電灯 ※それぞれ実験できる数 白い紙 ※グループで実験できる枚数 ホワイトボード ホワイトボードマーカー 写真や図を掲示するためのマグネットなど <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の虹の写真 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 虹のイラストを人数分用意しておく。 虹のイラストの活動でクレヨンや色鉛筆を十分な数を準備しておく。 予め実験に使うアルミホイルをつけた白色灯の懐中電灯を準備しておく。 <p>【実験準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①アルミホイルを20cm四方に切り、真ん中にカッターで5cm程度の切れ目を入れる。 ②懐中電灯の真ん中に切れ目がくるようにアルミホイルをかぶせ、輪ゴムでとめておく。 予め実験の内容を行っておく。 <p>【実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ペットボトルに水を入れ、懐中電灯の光がペットボトルに反射する位置に紙を置く ②懐中電灯とペットボトルの角度を見ながら神の位置を変え、虹の写る場所を探す。
10:05～10:15	<ul style="list-style-type: none"> 虹の色について自由に発言し、子どもたちが知っていることを共有してみる。虹の色を予測して虹の色塗りを行う。 虹の色については固定せず、それぞれが感じる色で書いて良い事を伝える。 出来上がった虹の絵をホワイトボードに掲示し、みんなで見合う時間を作る。 	
10:15～10:30	<ul style="list-style-type: none"> アルミホイル、懐中電灯、ペットボトルを使って実験を行う。【実験①】 実験の手順を知らせ、どうなるか考え、発表する時間を作る。 「この実験でどうなると思う？」「どんなものが見えるかな？」と問いかけ、発言を援助する。 光を水に通すことで虹が現れることを観察し、実際に虹を作る体験をする。 「何が見えるかな？」「虹ができたね。虹は何色かな？」と伝え、観察の視点や試行錯誤が広がるようにする。 	
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> 虹ができる仕組みを振り返り、太陽の光が実際にいろいろな色を含んでいることを理解し、光と色の関係について話し合う。 光を水に通すことで虹が現れることを観察し、実際に虹を作る体験をする。 実際の虹の写真をホワイトボードに貼り、虹ができるのはどんな時か考える。 「虹がどういう時に現れるかな？」と問いかけ、虹ができる仕組みを考える。 「虹が見える時は、雨上がりが多いね。」「虹が見えている時、太陽はいるかな？」と問いかけ、水（雨、水蒸気）と光（太陽）によって虹ができていことに気付けるように工夫する。 次回は、太陽についての調べてみることを提案する。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに虹の仕組みと光の色について学ぶ機会を作った。 どのように虹が出来るかを自由に発想して意見を伝えあった。 最初に「虹は何色？」という問いを投げかけ、子どもたちは自分の考えを自由に発表した。 その後、虹を描いて光の色を予測をしたり、イラストを見たりして、実験を行い、光が水を通ると実際に虹が現れることを確認した。 ペットボトルと懐中電灯を使い、光が水を通ることで色が分かれる現象を観察し、実際に虹を作り、その過程を実感することができた。 光の当たり具合で色が出る様子が変わる変化に気づき、色々と試した 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「雨が止んでお日様の光が出たら虹が出来る」「雨がペットボトルの水で、お日様はライトってこと？同じこと？」と天気と結び付けて考える姿があった。 「なんでだろう！？」「そうか！光とお日様は一緒なのかな？」と気づきを共有する場面もあり、興味津々で実験を進めていた。 実験後の振り返りでは、「光って何色があるんだろう？」とさらに深い質問を投げかけ、考えを広げる姿が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの発言を受け入れ、さらに考えを深めるために「どうして虹の色が出るんだろう？」や「他の色はどんなところで見られるかな？」といった質問を投げかけた。 実験中には、「どんな変化が起こると思う？」と予測させ、実際の変化を観察しながら子どもたちの意見をサポートした。また、実験を通じて「光の色が混ざって虹になる」という結果を整理するために、子どもたちに「自分で見たことや考えたことを話してみよう」と促し、意見を自由に表現できるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> 活動を通じて、子どもたちは太陽の光の色や虹の色に対する興味を深め、実験を通じてそれらの関係性を理解できた。 子どもたち同士で意見を交わしながら、考えを深める姿が見られた。予測と実験の結果の違いを楽しみながら、自分の考えを発表できたことが良い成果につながった。 次回も、子どもたちが自分で考えたり、仲間と意見を交わしながら進められるような活動を続けていきたい。 実験活動を取り入れたことで、子どもたちの理解が深まり、より興味をもって参加する様子が見られた。今後も実際に体験できる活動を取り入れていきたい。 	<p>自分たちで光の当て方や置き方などを試行錯誤しながら行ってくことで、うまくいかない体験を共有することができた。失敗したことに後ろ向きにならず、次はこうしてみよう！と楽しんで試行錯誤する姿あり、そういった姿こそ、今の子どもたちに必要な体験であると感じた。また、普段は使用できない懐中電灯を使用できたり、暗闇の中で活動できる特別感も感じるようになっていてとても楽しそうだった。水と太陽で今後も行うとより一層空の虹とつながりやすいの機会をつくるとよい</p>



実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	8 月 27 日 (水)	川邊

● 実施計画

活動テーマ	
たべもの ~野菜~ 野菜ってなに？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
給食や家庭の食事に使用されている野菜の名前を覚えたり、「これはなに？」と野菜に興味をもっている。好きな野菜や苦手な野菜について友だちと話したりする様子が見られる。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00~10:10	<ul style="list-style-type: none"> 野菜について知っていることは何かを問いかける。 子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。
10:10~10:30	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の観察をしてみようと提案する。 虫眼鏡の使用方法を確認する。 包丁を使って野菜を切り、観察する 野菜の中がどうなっているか予想してみる。
10:30~10:40	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の中を観察する。 切った野菜を使い野菜スタンプをする

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> 野菜についてのイメージや知っていることをを問いかけ、発言してもらう。 虫眼鏡の使用方法を確認し、野菜の観察を行った。色やにおい、重さ、かたさ、触感、ヘタの有無などについて探究を深めた。 野菜の中身の観察では、どんな中身かを予想したあとに、切った断面や中の様子を見比べた。 振り返りでは観察での発見や感想を友達と共有する時間を設けた。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜を手に取り、においをかいだり、虫眼鏡でじっくり観察したりと五感を使って観察していた。 「タネがある」「これはネバネバしてる」「スタンプにすると形がちがうね」と友だち同士言い合いスタンプを楽しんでいた。見た目や手触りの違いに気づいて言葉にしていた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの発見やつぶやきを受け止め、「ほんとだね、においはどう？」「他の野菜とくらべてみようか」と問いかけを返して、さらに探究を深めるサポートをした。 子どもの気づきを言語化しやすいように、「つつる」「ざらざら」「ふわふわ」などの言葉を一緒に使いながら対話をした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは、普段何気なく食べている野菜にも多くの発見を見出し、観察を通して「野菜って面白い」「もっと知りたい」という探究心が高まっていた。 見て、さわって、話して、比べるという経験を通して、子どもたちは自然と観察力や表現力を育んでいた。 “食べもの”としてではなく、“自然の不思議”として野菜に向き合う機会になり、食育と探究の接点を実感した。 普段の食事では見過ごしがちな野菜の特徴に対して、子どもが自ら気づき、他者と共有することで学びが広がることを実感した。 	<p>先日のクッキング活動から野菜について興味が高まった状態で行えたのがより探求心を深められてよかった。様々な違いに気づき、子どもたちからたくさんの「声」が聞かれ、また友だちの気づきにも耳を傾けている姿がたくさん見られた。その後、野菜を使った見立て遊びや大型製作などの遊びに発展し、子どもたちの満足度も大きかったように思う。</p>



実施クラス	実施日	実施保育者名
4.5 歳児 こあら らいおん 組	12 月 11 日 (木)	川邊

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ これは何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日々の生活の中で、身の回りにある色に自然と目を向けている。『この花はあか！』『先生の服はみどりだね』と色を言葉にしたり、絵を描くときに好きな色を選んだりしている。また、食事の中でも『にんじんはオレンジだね』『ブロッコリーはみどりだ』と気づいたり、活動の中で色の違いや混ざり方に関心をもつ姿も見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00-10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・「いろおに」をして、保育室内の色に関心をもたせる。 ・色の原料の写真から何色ができるかを考える。 ・12色の色画用紙の中から、好きな1色を選ぶ。 ・選んだ理由を考え、なぜその色が好きなのかを考える。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがたくさん色を見つけやすいように、環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の色画用紙 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本
10:30～10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・色の持つ印象について話し合う。 ・「どの色が楽しい?」「どの色が悲しい?」など、色彩心理学の視点から色の効果を体感する。 ・「赤は元気が出る色?それとも静かな色?」など、感じ方の違いを共有する。 ・寒色暖色中性色について知る。 ・生活の中で色を意識する機会を増やすよう促す。 ・身の回りの色に注目し、それぞれが持つ意味や効果を考える。 ・次回は色作りの実験をすることを伝え、次回の活動に興味を持てるようにする。 	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の八つ切り画用紙 ・色の効果、寒色暖色中間色について事前に学習して理解を深めておく。 ・色の原料について事前に学習して理解を深めておく。 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真。(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本をプリントする。 ・色彩心理学に関する資料を用意し、理解しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>導入でいろおにをして色について興味を持った。色の原料の写真から何色が出来るかを考えた。また12色の画用紙の中から好きな色を選び、この色が好きな理由を考えることで色への理解を深めた。また寒色暖色中性色について知り、色のイメージをみんなで話し合うことで更に色への興味を深めた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この色は明るくて楽しい感じ!」、「青好きだけどピンクと並べたら暗い色に見えるね」、「〇〇から色ってできるんだね」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この色を見てどんな気持ちになる?」「どんな場面でこの色が使われているかな?」と問いかけながら、子どもたちが色の持つ意味を考える手助けをした。また色の役割についても簡単に紹介し、興味を広げるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、色の違いや組み合わせに強い関心を持ち、「自分でも色んな色を作ってみよう」と興味を深めていた。 ・自分の好きな色を選び、その理由を考えることで、色への理解が深まり、表現する力も育まれていた。 ・色彩心理の話に興味を示し、思い思いに頭に浮かんだことを発言していた。 	<p>「色」については前から興味が高かった子どもたちだった。また「英語探求」でも色に触れていたので関連制を持って取り組めたことがよかったと思う。色彩心理については先入観のない子どもたちならではの感性や感覚が現れていた。</p>



実施クラス	実施日	実施保育者名
4・5 歳児 こあらいおん 組	2 月 17 日 (火)	川邊

● 実施計画

活動テーマ	
おかね ～おかねってなんだろう～ お金ってどんな形？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
前回の物々交換体験を通じて、お金が「物を交換するための便利な道具」であることを理解した。 日頃の生活の中で見かける日本のお金について、その形やデザイン、色など、具体的な特徴に好奇心が向いている。	
活動スケジュール	環境設定・準備物
時間	内容
10:00～10:05	<ul style="list-style-type: none"> 前回の活動を振り返り、物々交換がうまくいかなかった理由とお金の利便性を再確認する。 お金はどんな形、色、模様かを考えてみる。 大昔はお金が貝殻だったことを知る。
10:05～10:30	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけの(またはクラスだけの)オリジナルのお金について、形や値段、絵などを考える。 アイデアを基にオリジナルのお金を描く。 描いたお金について発表し、友達の作品の素敵な点も共有する。 次回、このお金で「お店屋さんごっこ」をして買い物体験をすることを伝え、期待につなげる。
	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にす。 【活動使用教材】 <ul style="list-style-type: none"> 模擬貨幣(紙幣、硬貨) 画用紙(白、八つ切り、1枚/人) 筆記用具(色えんぴつ、クレヨンなど) ホワイトボード ホワイトボードマーカー 【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> 模擬貨幣をクラス人数分以上用意しておく。 デザインのヒントになる図鑑等を用意しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> 前回の活動を振り返り、お金が交換に便利な道具であることを確認した後、実際のお金がどんな形、色、模様かについて考えた。 自分たちで新しいお金を作るなら、どんな形、値段、絵にしたいかを考え、自由な発想でオリジナルのお金を描く活動を行った。 オリジナルのお金を使い、買い物ごっこを行った。 	【子どもの姿・声】 <ul style="list-style-type: none"> 「どんなお金作ろうかな」「大きさを覚えてお金の値段変えようかな」と考えて作っていた。 【保育者との関わり】 <ul style="list-style-type: none"> 見た目だけでなく、感触や重さの違いなど、観察する視点を広げられるように援助した。 現実のお金にとらわれず、子どもたちの自由な発想を尊重するよう配慮した。 発表時、質問や問いかけを通して発表内容が具体的にできるよう援助し、友達の作品で気づいた点を認めていくことを意識した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> オリジナルお金作りでは、子どもたちの自由な発想を褒めることで、やる気にも繋がり黙々とお金作りを行っていた。また他児と被らないように作る姿も見られた。 自分達で大きさによって、お金の価値を変えるという考えを自ら持つことも出来ていた。 	日頃は玩具の一つだったり大人が扱うものである「お金」だが、ルーツを知ったり、「お金」とは何か。をみんなで探求することで「お金」について身近で大切なものであることができたと思う。自分のオリジナル「お金」を作成することは遊びを通して「お金」に親しむ体験となった

